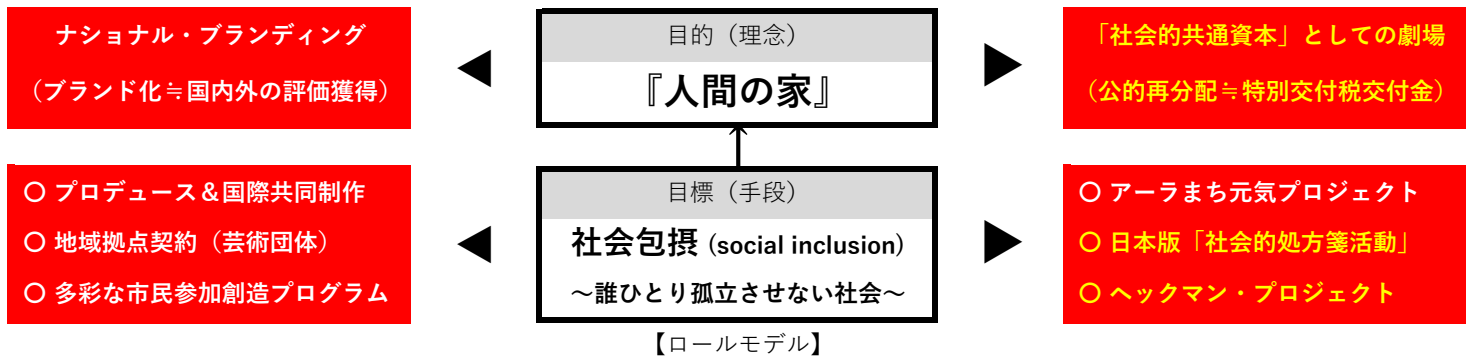


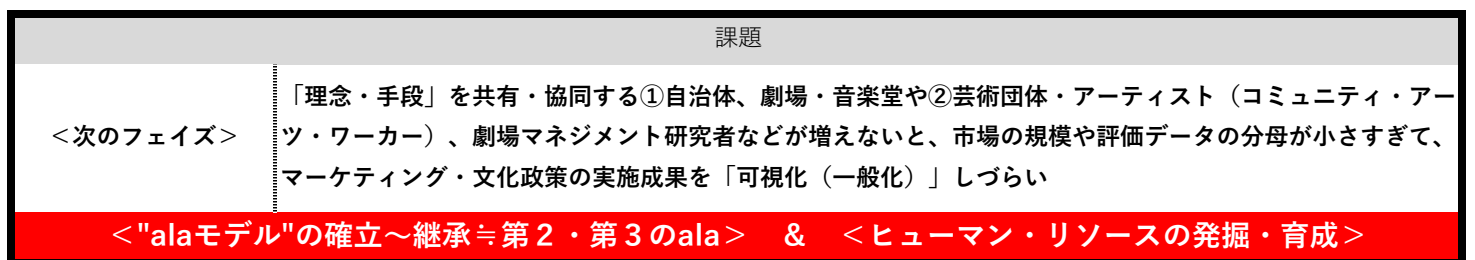
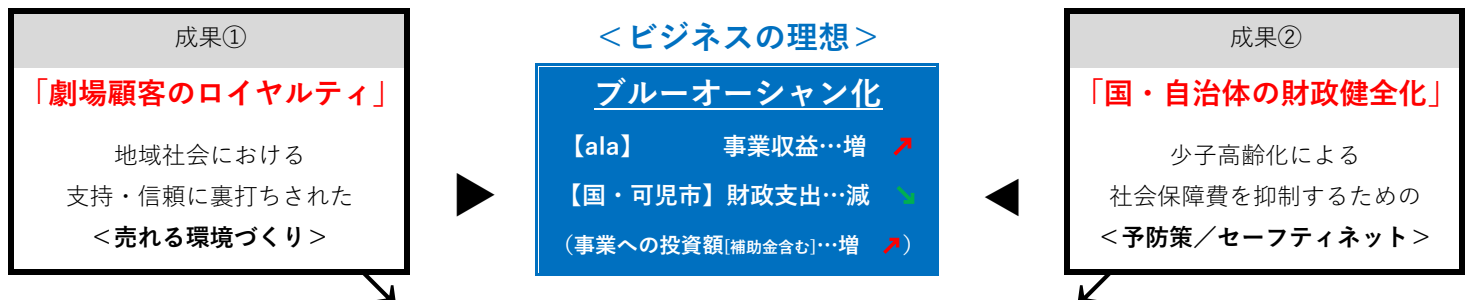
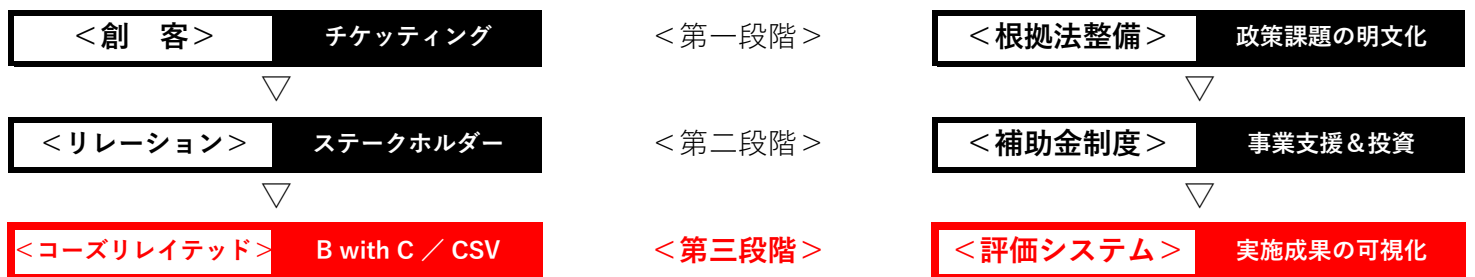
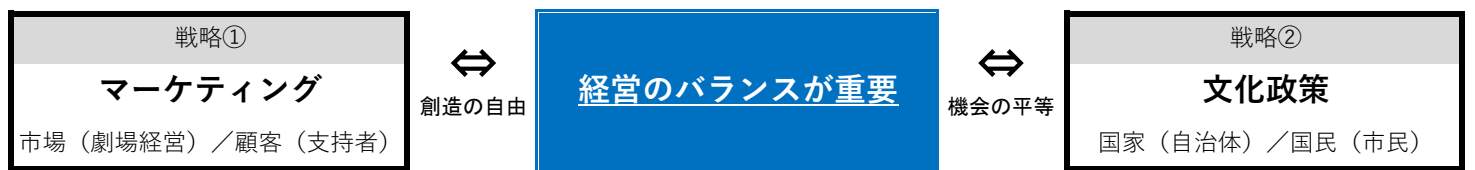
“可児市文化創造センターala”のビジネスモデル (2020/05/18 栗田イメージ)

【ala】 劇場・音楽堂

【国・可児市】 行政機関



リーズ・プレイハウス(LP)/英国芸術評議会



* 次の指定管理期間5年間で「5館」 (ala・丸亀含む)、その次の5年間で「15館」を目指す▶10～15年構想

○地域連携イメージ: 北海道・東北/関東/中部/近畿/中四国・九州の5ブロックに3館ずつ

* "alaの経営モデル"を継承しつつ、それぞれの地域に立脚した人材・プログラム・アクティビティを▶目標設定の柔軟性・多様性

* 「ピラミッド」ではなく「クラスター (葡萄の房)」、「トリクルダウン」でなく「サーキット」を▶公文協・劇音協との差別化

* まずは「丸亀市 (市直営型?)」開館へ向け、スタッフレベルで交流を本格化→地域連携のプロトタイプ▶経営手法のパッケージ化

* 「あーとま塾」の (年間) インターンシップ導入による<経営人材&地域連携館の掘り起こし>▶全国規模のチームビルディング

* 「人事交流」「国際共同制作」など重要なプロジェクトの推進は地域連携の枠を越えて共同・連携を▶人材活用の流動性確保